

◇本年度の取組重点

- ①どの子にも面白く分かりやすい授業をめざし、基礎基本の習得とそれらを活用して「思考力・判断力・表現力」の育成を図る(特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力の確実な定着を図る)。
- ②学校生活全般(特に授業の中)にも生徒指導を取り入れることで、いじめ・不登校のない学級・学校を目指す。
- ③インクルーシブ教育システムの理念をふまえ、特別支援教育の推進に向け、職員の校内支援体制の一層の工夫・充実を図る。また、ノーマライゼーションの考えを育むよう努める。
- ④「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基に据える。また、児童会が作った「落合小こびっとルール」に全員で積極的に取り組む。
- ⑤読書・辞書利用・家庭学習を包括した学習習慣の育成を図る。特に、明快な「学習の仕方」を身につけさせ、学習に主体的に取り組む力を高める。
- ⑥体育・食育を重視し、生涯を通じて健康な生活を送るために必要な運動習慣、食習慣、衛生習慣を育成する。
- ⑦児童会活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成する。
- ⑧「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」「いじめ・不登校未然防止推進事業」に積極的に取り組み、場こふさわしい行動・あいさつができるようにする。
- ⑨安全教育・安全管理を計画的に行い、「自分の身は自分で守る」知恵と力を育てる。
- ⑩情報を積極的に発信・受信し、家庭・地域・関係機関との連携を深め、より「開かれた学校づくり」を推進する。

*落合小学校教職員による自己評価、児童と保護者によるアンケートを【A:そう思う B:ややそう思う C:ややそう思わない D:そう思わない】の4段階評価で実施した。その回答を「AとBの合計:肯定的評価」、「CとDの合計:否定的評価」として割合で示し、【A:4点、B:3点、C:2点、D:1点】としてその平均点をポイントとして算出し、前期の結果と比較した。

*後期のアンケートについては、教職員・児童に続き、新たに保護者についてもすべてウェブ上(アンケートフォーム)でアンケートを実施した。

I 全体評価

本年度後期の自己評価結果は、前期同様に、肯定的な回答が大勢を占め、総じて評価は高い。また、いずれの項目においても、肯定的な意見が100%かそれに近い結果であった。

《評価内容と肯定的な評価の割合、ポイント》

- 1「学校教育目標」 ①～④ (A・B:100%)、後期3.7ポイント(前期3.7ポイント)
- 2「学校経営・組織」 ⑤～⑩ (A・B:100%)、後期3.7ポイント(前期3.7ポイント)
- 3「学習指導・生徒指導」 ⑪～⑯ (A・B:98.5%)、後期3.5ポイント(前期3.5ポイント)
- 4「地域との連携」 ⑰～⑳ (A・B:96.4%)、後期3.6ポイント(前期3.5ポイント)
- 5「学校の特色」 ㉑～㉒ (A・B:100%)、後期3.6ポイント(前期3.6ポイント)

となっている。

II 各項目の評価結果（達成状況・改善策）

1 「学校教育目標について」

達成状況

- ・全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントはすべて3.6を上回っている。ただし、項目別では学校経営構造（スクールプラン）の計画・実施について、前期と比べると、3つの項目でポイントがわずかに下がっている。
- ・「教職員が協力して取り組んでいる。」「職員間の雰囲気が良い。」など意見があり、多くの行事を教職員全員で協働し取り組んでいる。
- ・例年計画・実施している運動会や文化発表会、6年生の陸上記録会のほか、本年度は南アルプス市教育委員会指定公開研究会発表会、6年生は修学旅行など行事が2学期にあり、その目的と実施の在り方について、実施時期・実施内容を含め、ウイズコロナの教育活動として、再度全教職員で見直しを求める意見がだされた。

改善策

- ・教職員が協働して行事に取組など良い点は継承し、スクールプランに見合った効果的な取組は何かを改めて考え、PDCAサイクル（計画・実施・反省・行動）だけに留まらず、行事の精選や実施にあり方を含めて、コロナ禍で実施できる方法、多忙化を改善できる方法を見出していく。

2 「学校経営・組織について」

達成状況

- ・すべての項目において、肯定的評価が100%で、ポイントもすべて3.6以上と高い数値になっている。
- ・校務分掌については、多くの行事を実施しながらそれぞれの立場で教育活動に主体的に取り組み、成果を残すとともに、公務の分掌（役割分担）が有効に機能していた。
- ・「安全点検（整理・保全）」は、ポイントが3.8ととても高く、全教職員の多くの目で見えて点検・改善を行うことができ、言葉での評価からも、本校の教育環境が安全に保たれていることがわかる。
- ・火災想定避難訓練は、地震想定（洪水想定）の避難訓練は、実施することができた。しかし、冬に入り、コロナ感染者が増加し実施を延期した。校内放送などでの注意喚起や動画の視聴などでの実施を求める意見が出された。
- ・職員会議については、昨年度より会議時間が長くなっているとの課題が出されている。

改善策

- ・職員会議や個別の支援が必要な児童などのケース会議については、会議の目的を確実に果たしながら、実施方法や参加人数の削減、効率的に進めるため、資料のデータ配布や事前の内容確認など今後も継続して短時間で有効な会議の在り方を考えていく。
- ・学校の安全管理については、日々の安全点検に加え、夏季の熱中症対策やコロナウイルス感染症対策を危機管理マニュアルに加えるなど全職員が共通理解して確実に対応できる準備を行っていく。

3 「学習指導・生徒指導について」

達成状況

- ・1項目「家庭学習を含めた学習習慣の育成」を除いて肯定的評価が100%であった。ポイントを前期と比べると、「積極的な生徒指導（いじめ・不登校へ対応）」については、大きくポイントが向上している（3.4から3.8）。

- ・「特別支援学級の児童に交流学級の先生方だけでなく、多くの先生方の理解と協力が得られている。」との意見がある一方で、「特別支援教育の推進の校内支援体制の充実」のポイントは、低下（3.8から3.5）。
- ・児童会活動については、「いいとこどりの木」（児童が良いと思ったことを紙（葉型）に書き、その紙を模造紙に書いた木にまわりに貼り、「いいとこどりの木」を豊かに飾っていくと同時に、放送や掲示で全校に知らせる）は、とても良い活動であるとの意見があり、ポイントは前期よりわずかに下がったが高い評価を得ている（3.9から3.7）。
- ・分かりやすい授業・基礎基本の「習得・活用」「思考力・判断力・表現力」の育成については、ポイントが3.2から3.3とわずかに向上した。

改善策

- ・「本校の「落合小学校のきまり」という立派なルールがあるので、各クラスで徹底して取り組んでいけるとよい。」とある通り、児童とともにルールを確認して、より良い伝統を守りつつ、コロナ禍の学校生活を安全に楽しく過ごすため、児童会と共に活動を進めていく。
- ・家庭学習の習慣含めた学習習慣作りについては、日々の授業との関りを含め、今後も全校態勢で研究を進める必要がある。また、特にタブレット端末の家庭での活用の在り方などは、保護者の理解や協力を得て、試行錯誤を繰り返しながら児童の実態に即した実践へつなげていきたい。

5 「学校の特色について」

達成状況

- ・すべての項目において、肯定的評価が100%であった。ポイントは、3.5以上になっている。
- ・「落合小学校ならではの学習が地域の方や講師の方の協力によって、成り立っている。」「郷土のほこりは、各学年の様々な教科等で行っている。それを継続して途切れることのないように教育課程に取り込まれている。」との意見にあるように、地域人材・保護者との連携や地域の豊富な教材（文化や歴史、自然や農業など）が本校の特色のベースになっている。
- ・教育目標・経営構想の具現化に向けて、行事の精選とカリキュラム・マネジメントの兼ね合いをはかるためにも、教職員全員で、「何が学校の特色なのか」を定期的に明確化することが重要になっている。

改善策

- ・地域と連携した学習活動を、これからものばしていきたい。
- ・落合小学校独自の学習を教育課程に明示するとともに、確実に実践する。同時に、学年間で内容が重複している内容は精選、コロナ禍での実施を踏まえた行事の見直しなど、より確実なカリキュラム・マネジメントを実施する。
- ・特別支援教育は本校の特色の一つである。また、通常学級においても、個に応じ特性に応じた指導について研修・実践を深め、実践力を身につけていくとともに、学びやすい環境も整備していく。

児童及び保護者へのアンケートによる評価

1 「学校生活について」(児童アンケート項目：1、10、11、12)

- ・児童アンケート「1 学校が楽しいか」保護者アンケート「1 子どもにとって学校は楽しいところか」の項目は、児童は99.1% (前期95.4%) (ポイント3.7 (前期3.6))、保護者は94.8% (前期97.3%) (ポイント3.4 (前期3.3)) が肯定的であった。
- ・児童では、「あまり楽しくない」と1人と回答している。否定的な回答をしている児童は、減少したが、以前「楽しくない。」と思って登校している児童がいる。この回答をした児童は、他のアンケートに「授業がかからない。」「相談できる友達がいない。」など否定的な回答があった。
- ・すでに何人かの児童には、個々に聞き取りを行うなど対応を始めている。今後も原因を探り、個別に丁寧に対応していく。
- ・保護者アンケート「あなたの子どもにとって楽しいところだと思うか」の結果では、否定的な評価の割合が増えている。
- ・児童にとっても子どもを送り出す保護者・家族にとっても、安心して送り出せるよう児童・家庭に寄り添い、丁寧に対応する必要がある。
- ・前期同様に「10 掃除活動」「12 児童会活動・学校行事」「11 きまりや約束」の項目は、95%以上の児童が肯定的な回答で、割合ポイントともに前期より向上している。

2 「授業について」(児童アンケート項目：3、5)

- ・「3 授業がわかるか」(児童)「わかりやすい授業」(保護者)の項目について児童は96.4% (前期88.9%) (ポイント3.4)、保護者は96.8% (ポイント3.3) が肯定的で前期と比べ肯定的な回答の割合が増加している。
- ・しかし、「あまりわからない」と回答している児童(4名)がいる。前期に比べて減ってはいるが、今後も課題となる。それぞれの児童の能力や特性にあった授業内容や学習スタイルを工夫するとともに、担任だけではなく全教職員で組織的に指導する体制づくりや保護者にも理解と協力を求めていきたい。
- ・「5 授業中の発言」については、肯定的な回答が73.7% (前期67.6%) と向上したが、ポイント2.9と前期と同様で大きな改善は見られなかった。(後期のアンケートには「タブレットをつかった質問・意見もよい。」とした。)
- ・この結果から、「タブレット端末を利用し自分の考えや仲間の考えを共有する」ことは大切であるが、児童にとって「伝える側と聞く側がお互いに相手を意識しながら、直接話し合う」こと機会を持ち、わかる楽しい授業をリアルに学ぶ機会もさらに作っていきたい。

3 「友達・教師との関わりについて」(児童アンケート項目：2、4)

- ・「2 仲良く遊ぶ友達」の項目は、肯定的評価が100% (前期94.4%)、ポイントが3.8 (前期3.7) となった。
- ・現状、どの学年も学級経営がしっかり行われ、概ね良好な関係が作られている。
- ・日々の学校生活では、友達同士のトラブルや生徒指導が必要な場合があったが、その都度、担任を中心として管理職を含め全職員で適切な対応を行ってきた。
- ・「困ったとき話ができる先生」は、肯定的評価が90.1% (前期81.5%) (ポイント3.3 (前期3.2)) と向上している。しかし、相談できる先生がいないとする児童が複数いる。まずは担任が

児童との信頼関係を深まる同時に、一人一人へ声をかけ全教職員で見守っていききたい。

4 「家庭での様子」(児童アンケート項目：6、7、8、9)

- ・児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか」は、肯定的評価は、84.7% (前期 75.0%)、ポイントな 3.3 (前期 3.1)、しかし、保護者アンケート「基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身についているか」の項目の肯定的評価は、83.0% (前期 88.2%)、ポイントは 3.0 (前期 3.1) となった。
- ・前期と比べると、児童アンケートでは改善が見られたものの、保護者アンケートでは評価を下げている。
- ・「家庭学習の定着」については、自己評価(教職員)でも、ポイントがわずかに下がっている。各学年の発達段階によって、教師から出される課題(宿題)と自ら学習する自主学習の量や内容は大きく異なります。児童自らが授業でも家庭へ帰ってからも、主体的に学習できる力・調整力を付けるよう取り組む必要がある。また、家庭でも児童が家庭学習に取り組めるよう環境を整えるなど協力を求めている。
- ・「地域の人にあいさつをしているか」についての肯定的評価は、児童が 96.4% (前期 88.9%) ポイント 3.6 (前期 3.4) と向上し、保護者は 83.2% (前期 79.8%) ポイント 3.0 (前期 3.1) である。コロナ禍で交流が減り、マスクしている時間が増えているが、人とのコミュニケーションの第一歩であるあいさつについては、今後も大切に指導していきたい。
- ・スマホ・携帯所持人数の割合は、36.9% (前期 34.3%) であった。そのうち使用の決まり・ルールを決めている割合は 62.5% (前期 56.8%) とある。